

土地区画整理事業における プロダクトモデルの活用 に関する基礎的検討

Katsushi Makita

はじめに

- 土地区画整理事業は一般に暮らしている人たちも協力して一つの街を作り上げていく、住民とともにする「まちづくり」である。
- 新たな属性により、防災に強い都市計画に役立てる。
- 計画者と住民の距離を縮めるために、より住民の理解が必要となる。

はじめに

- 現在あるデータにより、属性付けするだけでなく、新たに属性を作り出すことでより幅広く、住民の要求に応えることが可能になる。
- より高度な視覚化を図るため、一般的にも利用されているGoogleEarthを使用することで住民の理解を深めることができる。

研究内容

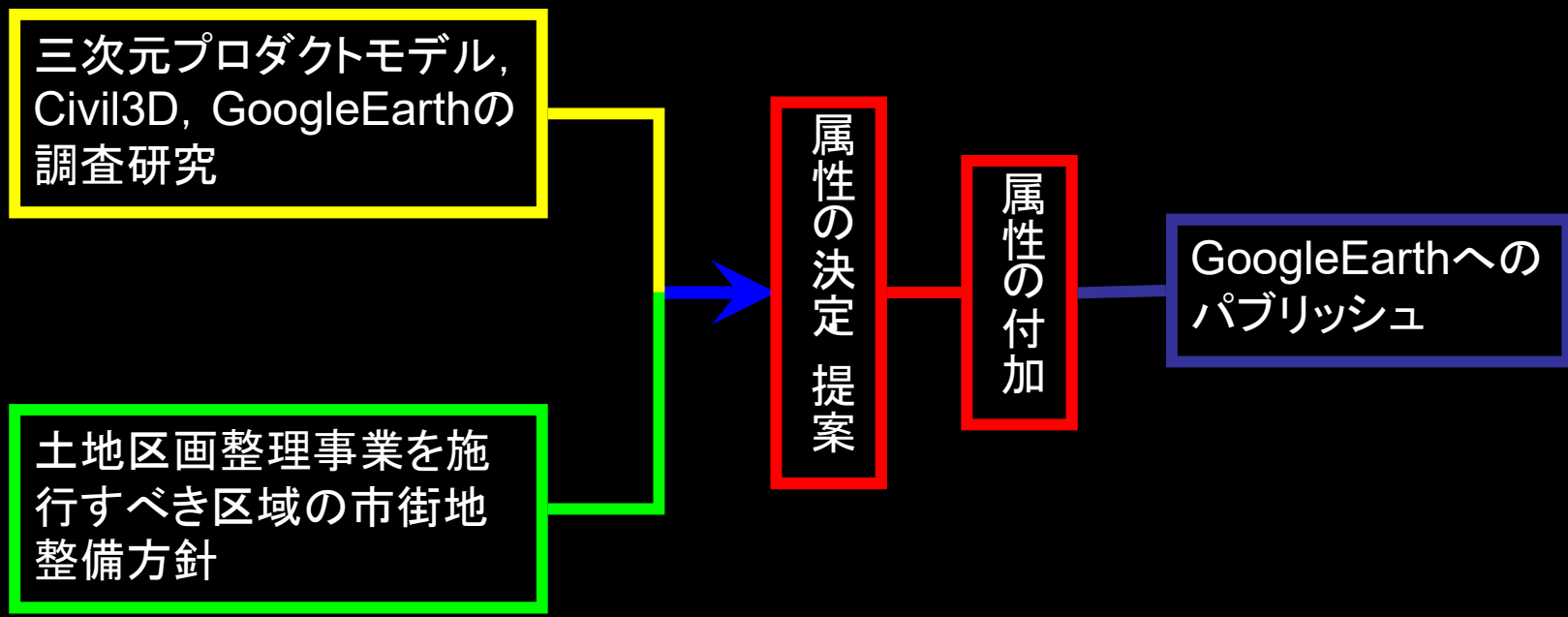
三次元プロダクトモデル,
Civil3D, GoogleEarthの
調査研究

土地区画整理事業を施
行すべき区域の市街地
整備方針

属性の決定
提案

属性の
付加

GoogleEarthへの
パブリッシュ



三次元プロダクトモデル

- それぞれに形状や材質等の属性情報を持たせ、それらを関連付けていくことによってデータモデルを構築している.

Autodesk Civil3D

■ 特徴

- 作図標準を簡単に維持できる。各オブジェクトタイプについて、**画層**、**色**、**フォント**、**ラベルのコンテンツ**などの設定をユーザが定義できる。

Civil3DとGoogleEarth

- Google Earth を利用して、企画から承認に至るあらゆる段階で、インタラクティブに最新設計情報の表示とナビゲートが可能。
- 企画会議あるいは公聴会などでインパクトの強いプレゼンテーションが可能。
- コンセプト設計の進展をクライアントと共有。

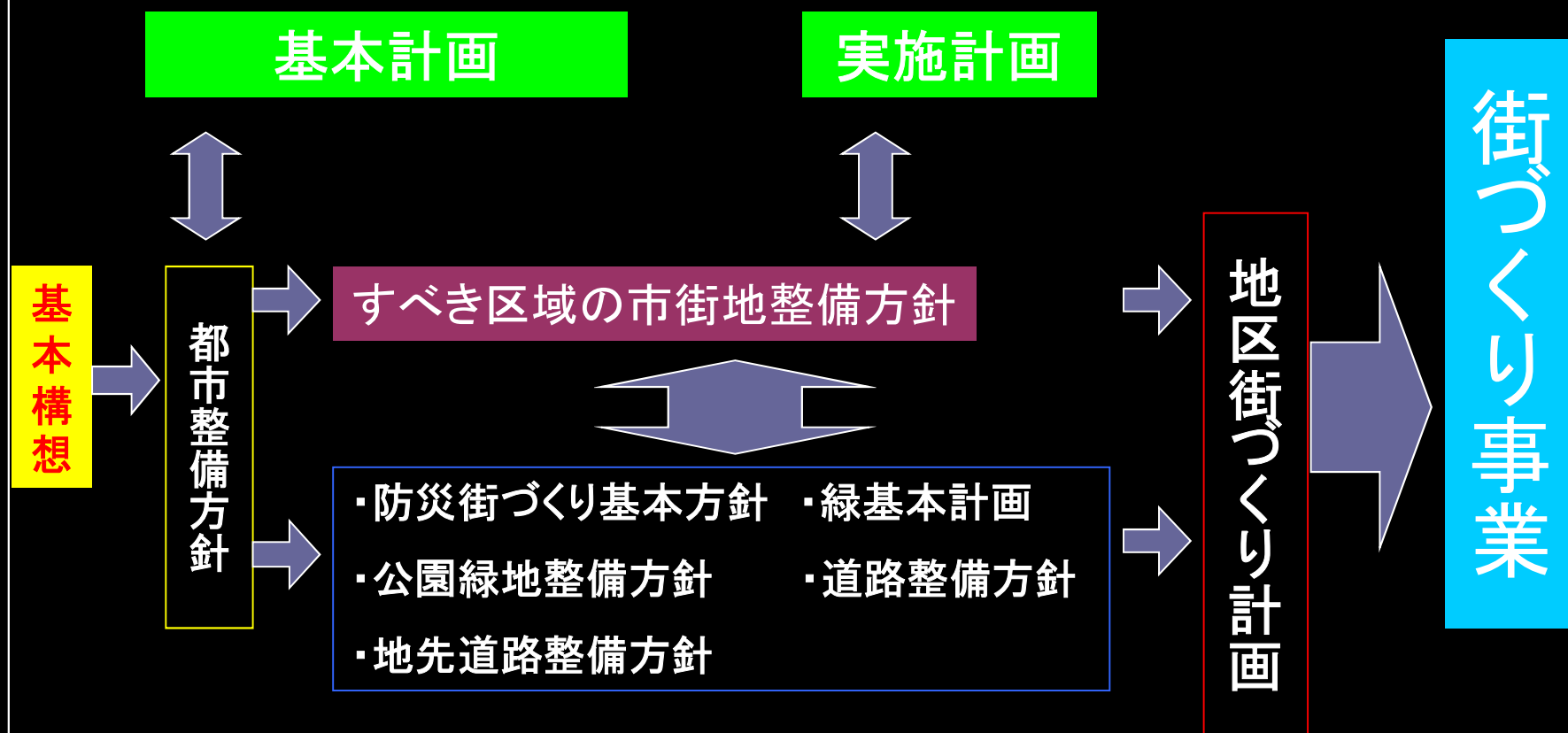
モデル地区の決定

- 世田谷区について研究を進める。
→本校が立地しているため。

「土地区画整理事業を施行すべき区域の市街地整備方針」

- 世田谷区は、当該区域のまちづくりについて、土地区画整理事業に限定しないで、地区計画等の多様な手法を活用し、街づくりを進めていくための、市街地整備方針を策定した。

市街地整備方針



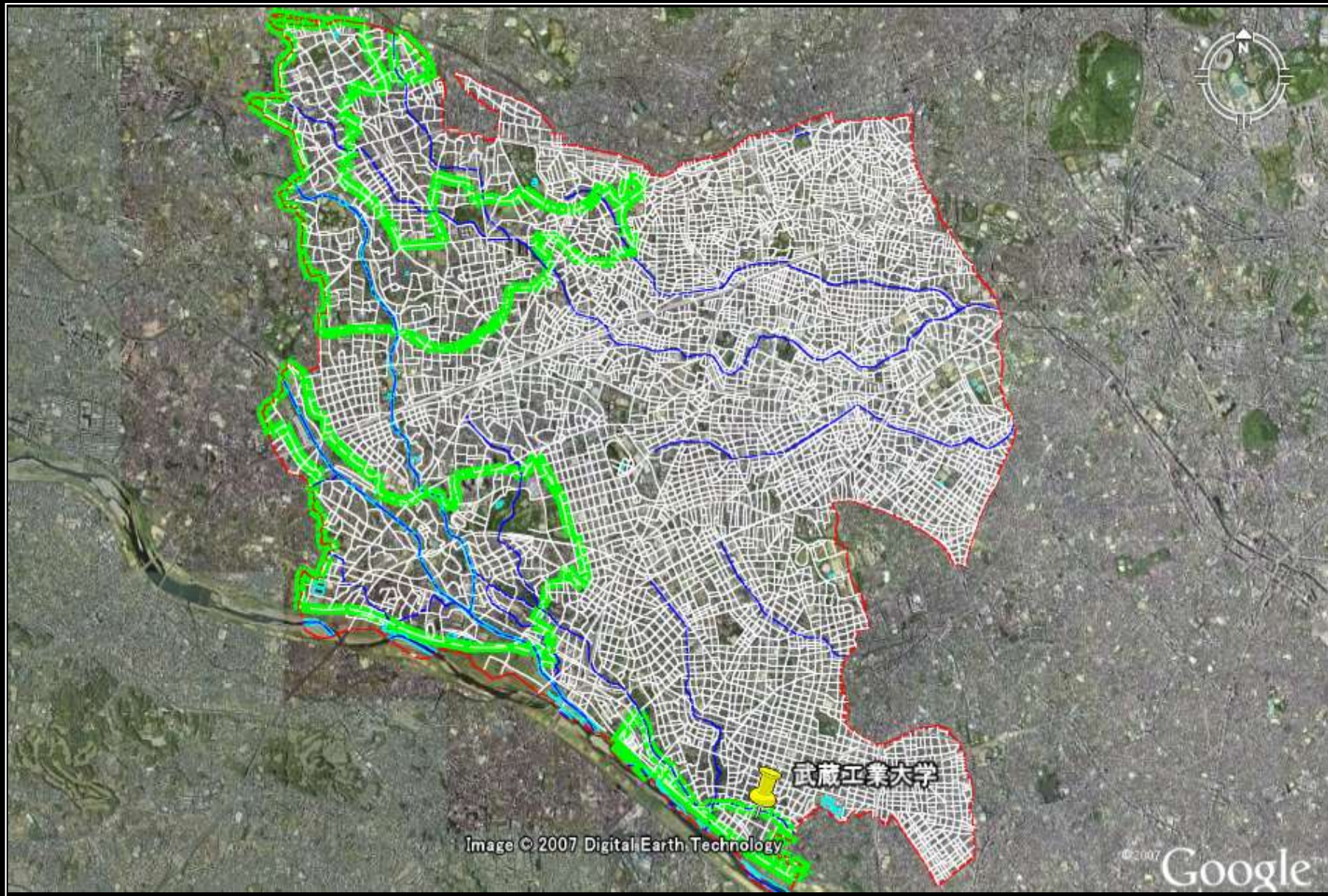


Image © 2007 Digital Earth Technology

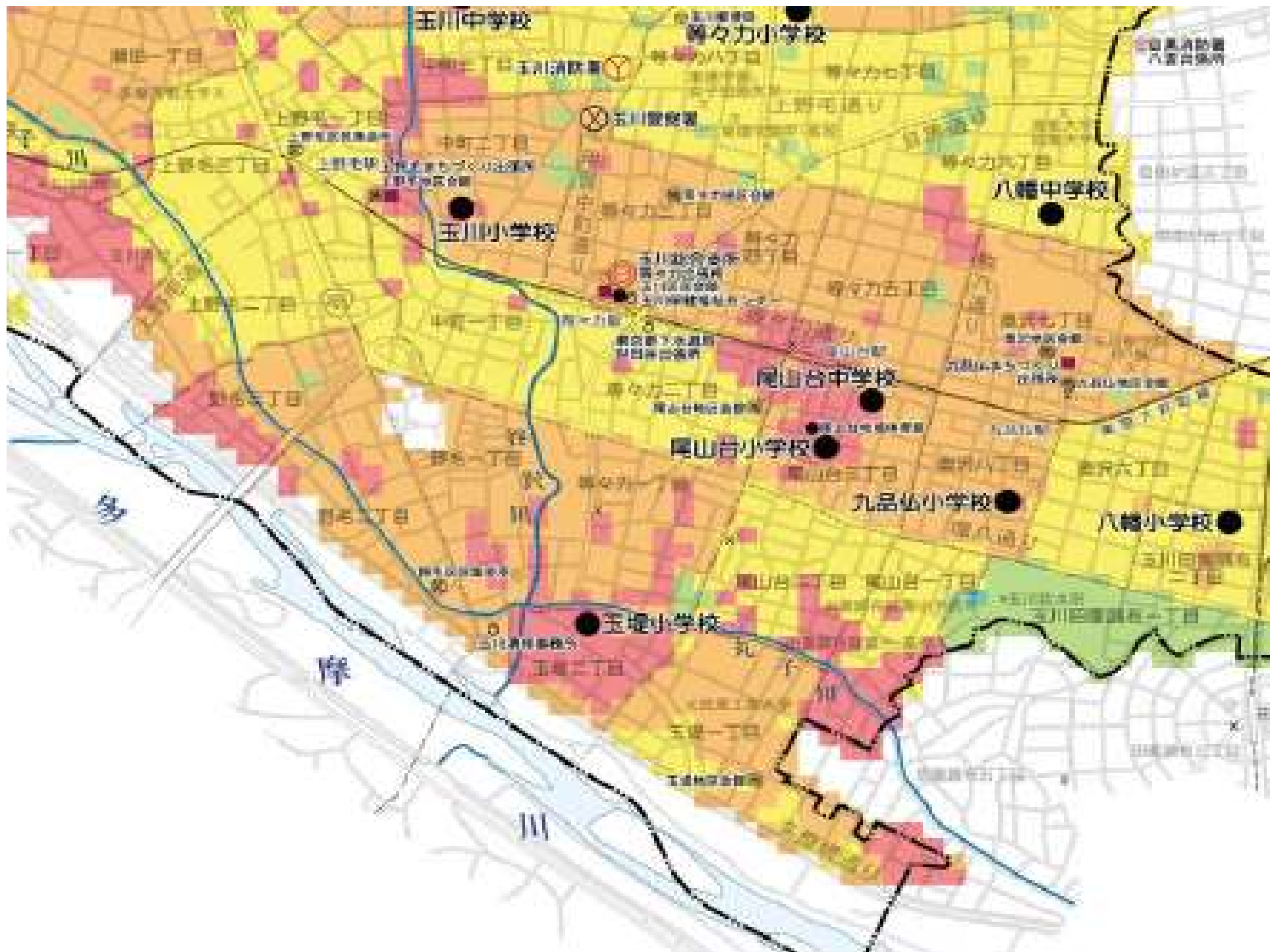
© 2007 Google

道路整備方針，地先道路整備方針

- 道路ネットワークは，市街化予想線を見直し，道路整備方針，地先道路整備方針の道路網を基本に，6～8mの地区骨格道路ネットワーク，それを補完する4～6m道路ネットワークに再構築する。地先道路整備計画に位置づけのない4～6m道路は，壁面線の指定等により，地域の住環境に配慮した空間としてネットワーク化を図っていく。









新たな属性の提案

- 道路幅員の線属性と、揺れやすさマップ・危険度マップによる面属性の3つを統合すればどの地域の整備を優先させるべきなのかを検討することに用いることが可能となる。





Image © 2008 Digital Earth Technology

© 2008 ZENRIN

© 2007 Google

考察

- 都市計画におけるプロダクトモデル作成時の計画の段階で道路の骨格作り, 道路拡幅の工期の優先順位など幅広く活用できる材料となる. これをGoogleEarthにより視覚化させることでよりわかりやすいプレゼンも可能になる.

今後の展望

- 基本方針に掲げられている防災街づくり基本方針，緑基本計画，公園緑地整備方針についてや，防災マップにある総合地盤特性マップや避難の安全性マップなど，多様な属性を設定すれば，より地域の安全性，環境，発展を考慮した街づくりが可能となる。

参考文献

- 1) Autodesk homepage : <http://www.autodesk.co.jp>,2007.10
- 2)GoogleEarth homepage :
<http://earth.google.com/intl/ja/index.html>,2007.10
- 3)世田谷区ホームページ:
<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/030/d00004890.html> ,2007.11

ありがとうございました